埼玉昆虫談話会

帝也概记 No. 85



1998. Jan. 31.

「寄せ蛾記」85号 表紙の説明

◆コヒョウモンモドキ

夏の信州の高原には普通に見られたコヒョウモンモドキも、最近はその数が減少している. 小型ではあるが裏面の斑紋のコントラストは、ヒョウモン類の中でも群を抜いている.

クガイソウの咲く信州の高原で、コヒョウモンモドキ と戯れるのも、また楽しいものである.

神久保 美津夫

表紙

図: 神久保 美津夫

デザイン : 小堀 文彦

.

帰化昆虫ブタクサハムシの記録

豊田浩二

.

1. はじめに

「秋の花粉症」に天敵現るという見出しで新聞を飾ったこの虫は、ハムシ類の分類学者である大野正男氏により北米産の Ophraella notulata (FABRICIUS) という日本未記録の種であることが判明し、ブタクサ類を食することから「ブタクサハムシ」という新称和名が与えられた.

筆者がこの虫の存在を知ったのは、去る '96年の夏のことである。東京農業大学・昆虫学研究室にて大学院生の岸本年郎氏に見せていただいたそのハムシは、一見イタヤハムシあたりの種に良く似た感じであったが、上翅の黒い筋が目立つ特異な種であった。氏の話によれば、種名はまだわからず、恐らく北米原産のものと思われ、アメリカに同定依頼が行くのかどうかいうことであった。ブタクサを喰っていて、急激な勢いで関東一円に広がっているらしく、見せていただいたものは八王子市の個体であったと記憶している。これは埼玉に入ってくるのも時間の問題と思い、一応気にとめてはいた。しかしその年は県内はおろか、東京都でもお目にかかれないままであった。

普段ゴミムシばかり採っている私は、次の年にはそのようなハムシのことは忘れかけていた のであるが、日高市の新井志保嬢が同市女影地区にて採集された甲虫類のなかに、再びその姿 を見いだしたときは目の覚める思いであった。早速、筆者の住む嵐山町で調べたところ、その 時点ではまだ進入していないようであった。そこで、日高市から嵐山町までの間でブタクサの 生えている場所を任意に選定し、約1週間ごとに発生の状況を観察していった。

2. 発生状况

まず本種が発生している場所に近づくと、ブタクサの花や蕾、新芽といった若い部分が、片っ端から喰われまくっているのが目に付く. その勢いたるや、草そのものを枯らすほどである(図6). ブタクサ以外にも、オオブタクサの新芽についている個体も見られる. 大野(1997) によれば、少数ながらオナモミにもついていると言うことであるが、筆者の観察した限りではオナモミについている個体は見いだせなかった. ブタクサに発生している個体が圧倒的に多い事は確かである.

筆者が観察した時期には、卵から成虫までの全ステージが同期に観察された。これはブタクサの生育時期(花芽等の)に合わせて一斉に発生したものなのか、もしくは分布拡大中の帰化生物に見られるような「勢い」によるものなのかは不明である。今後の観察でステージの状況が変化するかどうか(例えば、成虫が発生している時期には幼虫が見られなくなるとか)注意する必要があろう。

寄せ蛾記 (85号) 1998年1月

3. 各ステージについて

卵は、円形でやや先尖りの形をしている。葉の上に20から30個ぐらいの卵塊状で産みつけられており(図3)、オレンジの色彩が良く目立つ。幼虫(図2)は、ややまばらに毛の生えた薄茶色の外見をしており、葉の固い部分を避けるように食害しているようである。蛹は茶色い糸で出来たまゆの中にあり(図4)、まゆは葉の表面に固定されている。成虫(図1)は、生時の色彩は灰色がかった黄色から暗いベージュ調で、上翅に数本の黒条が入る。この黒条については個体変異が大きく、外側の一条を除いてほぼ消失するものまで見られる。酢酸エチルで殺すと暗い色調に変わってしまうが、亜硫酸ガス等で殺せば生時に近い状態が保てるようである。またこの色彩は、食害を受けたブタクサ、オオブタクサのその部分では、見事なカモフラージュとなっている。成虫の動きはあまり活発でないが、飛翔能力はそこそこあるようで、嵐山町吉田地区にて確認した個体は筆者の運転する車にぶつかってきたものである。(標本にしようと思い、フィルムケースにゴミムシといっしょに入れておいたらこわれてしまった。)

4. 確認できた発生地

現在までに、埼玉県内で筆者が確認できた地域はわずかなものである。分布資料として活用いただければと思うので、採集データを以下に示す(位置については図5を参照).

- 1頭、6-VIII-'97、日高市中沢 (宅地脇の空き地、ブタクサ), 新井志保採集、保管.
- 10頭, 7-VIII-'97, 同所, 新井志保・豊田浩二採集, 保管.
- 7頭, 19-VIII-'97, 同市女影(田圃脇の休耕田, ブタクサ), 新井・豊田採集, 保管.
- 5頭, 23-VIII-'97, 東松山市早俣(越辺川土手, オオブタクサ), 豊田採集, 保管.
- 7頭, 27-VIII-'97, 同市毛塚(九十九川, ブタクサ・オオブタクサ), 豊田採集、保管,
- 20頭, 13-IX-'97, 嵐山町鎌形(都幾川班渓寺橋, オオブタクサ), 豊田採集, 保管,
- 1頭, 20-IX-'97, 同町吉田 (水田脇の道路, 飛翔中の個体), 豊田採集.

また、県外での採集・観察例もあるので挙げておく.

- 1頭, 28-IX-'97, 千葉県柏市手賀沼(ブタクサ)、橋村正雄採集、保管.
- 2頭, 17-VIII-'97, 同県我孫子市(利根川河川敷, オオブタクサ), 橋村採集, 保管.
- 2頭、19-VII-'97、東京都足立区千住桜木町(荒川河川敷,ブタクサ),橋村採集、保管.
- 目撃,29-V-'97,東京都葛飾区小菅(古隅田川,若いオオブタクサ),橋村.
- 3頭, 7-IX-'97, 栃木県藤岡町渡良瀬川 (オオブタクサ), 豊田採集, 保管.

5. おわりに

ブタクサハムシは大野氏が示したように、すでに関東一円に広がっている可能性がある. 花粉症の元凶を食い荒らすのは悪くはないと思うが、その勢いが尋常でないゆえに、今後生態系にどの様な影響を及ぼすのかが気がかりである. 分布状況の確認は今後も続けてゆきたい.

末筆ではあるが、いつもお世話になり、本種の調査のきっかけを与えてくれた東京農業大学 大学院の岸本年郎氏に、また、本稿をまとめるにあたり快く情報提供を頂いた東京都足立区の 橋村正雄氏、東京農業大学昆虫学研究室の新井志保嬢に厚く御礼申し上げる.

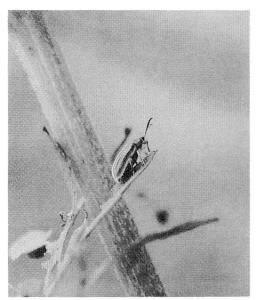


図1. ブタクサハムシ成虫



図2. 幼虫

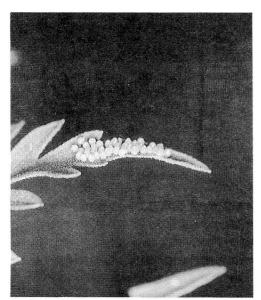


図3. 卵塊

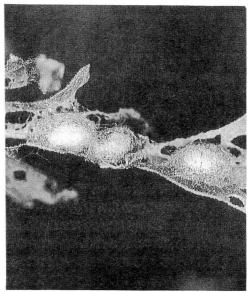


図4. 蛹

寄せ蛾記 (85号) 1998年1月





図5. 埼玉県内の発生状況 (採集地は任意)

図6. ブタクサの食害の様子

参考文献

大野正男(1997)ブタクサハムシ (新称) 日本に侵入. 昆虫と自然, 32(11):35.

(とよだ こうじ 〒355-02 比企郡嵐山町菅谷686)

.

嵐山町にてヒラタクワガタを採集

豊田浩二

やや古い記録だが、県内では記録の少ないヒラタクワガタを採集しているので報告する.

・ヒラタクワガタ Serrognathus platymelus pilifer (SNELLEN VAN VOLLENHOVEN) 1 ♂, 27-VI-1992, 埼玉県嵐山町菅谷(雑木林のクヌギ樹液にて,昼間),豊田採集,保管.

(とよだ こうじ 〒355-02 比企郡嵐山町菅谷686)

.

玉木長寿氏,柴田直之氏および星野正博氏による 埼玉県産クワガタムシの記録

長畑 直和

.

以下の様に埼玉県内におけるクワガタムシの記録があるので分布資料として報告する. なお, 玉木長寿氏採集によるものは"玉木", 柴田直之氏によるものは"柴田", 星野正博氏による ものは"星野"と略した.

- Lucanus maculifemoratus Motschulsky,1861 ミヤマクワガタ 毛呂山町阿諏訪二区, 1977.7.17, 1 ♂, 玉木 毛呂山町阿諏訪二区, 1977.7.31, 1 ♂ (死骸), 玉木 毛呂山町鎌北湖付近, 1978.8.19, 1 ♂, 玉木
- Macrodorcas rectus rectus (Motschulsky,1857) コクワガタ 三芳町上富,1995.12,多数 (朽木中),柴田 毛呂山町前久保,1975.8.4,1♂,玉木 与野市下落合,1994.2.6,1♂(植木鉢下で越冬中の個体(星野)
- 3. Macrodorcas striatipennis Motschulsky,1861 スジクワガタ 東秩父村二本木峠登路,1976.9.26,1♂,玉木
- 4. Platycerus acuticollis takakuwai Fujita,1987 コルリクワガタ (トウカイコルリクワガタ)

大滝村中津川林道(標高1100m付近),1995.10.7,多数(幼虫),柴田

- 5. Prosopocoilus inclinatus inclinatus (Motschulsky,1857) ノコギリクワガタ 川口市行衛, 1988.6, 3♂, 柴田 川越市砂新田, 1995.12, 1♂ (朽木中), 柴田 三芳町上富, 1995.12, 1♂ (朽木中), 柴田 毛呂山町川角, 1973.7.7, 1♂, 玉木 毛呂山町前久保, 1975.8.2, 1♂, 玉木 毛呂山町前久保, 1977.7.3, 1♂, 玉木 毛呂山町前久保, 1977.8.6, 1♂, 玉木 毛呂山町前久保, 1977.8.6, 1♂, 玉木
- 6. Serrognathus platymelus pilifer (Snellen van Vollenhoven,1861) ヒラタクワガタ 川越市下広谷, 1977.6.28, 1♂(灯火), 玉木 毛呂山町岩井, 1977.7.1, 1♂, 安藤耕太郎採集・玉木所蔵 川越市砂新田, 1995.12, 1♀(朽木中), 柴田 与野市下落合, 1997.8.28, 1♂(星野)

貴重な記録を恵与して下さった玉木長寿氏柴田直之氏および星野正博氏にお礼申し上げます.

(ながはた なおかず 〒362 上尾市原市11-3 越川グリーンハイツ5号)

ヒラタアオコガネを埼玉県東部で採集

萩原昇

埼玉県内のヒラタァオコガネ Anomala octiescostata Burmeister の採集記録は少なく,これまで浦和市の1例(橋本良一、1953、浦和市及び祖の近郊の甲虫類、Argynnis Vol.3-1:1-3)のみであった。筆者は本年、埼玉県東部に於いて、2個体を採集したので、その状況及び写真を添えて報告する。なお、過去の採集記録に関する情報を提供してくれた小堀文彦氏に深く感謝申し上げる。

1. 幸手市の記録とその状況

採集場所:幸手市大字長間

採集日 : 1997.04.20 採集個体数:1個体 採集者 : 萩原昇

採集状況

中川沿いの自然堤防上の雑木 林に近い水田の畔道に自生して いたセイヨウタンポポの花の上 にいたヒラタアオコガネを発見 した。 (天候,晴れ,正午頃)

2. 春日部市の記録とその状況 採集場所:春日部市梅田本町

採集日 : 1997.05.24 採集個体数:1個体 採集者 : 萩原昇

採集状況

国道16線に面した住宅街(自宅の庭)ブドウ棚のブドウの花の上にいたヒラタアオコガネを発見した。(天候、晴れ,9時頃)



写真 1 1997年4月20日に幸手市長間で撮影したヒラタ アオコガネ (セイヨウタンポポの花に飛来)



写真1 1997年5月24日に春日部市梅田本町で撮影した ヒラタアオコガネ (ブドウの花に飛来)

(はぎわら のぼる 〒344-0053 春日部市梅田本町 2-9-3)

春日部市で採集したトリバガ2種の記録

萩原 昇

筆者は、偶然にも勤務先と自宅でガラス窓に止まっていたトリバガを採集したので、その記 録を報告する.

PTEROPHORIDAE トリバガ科

PLATYPTILINAE

ホソトリバガ亜科

Platyptilia farfarella (ZELLER) エゾギクトリバ カタログ番号 2036

春日部市緑町 1 ex.,1997.06.21, 萩原 昇;

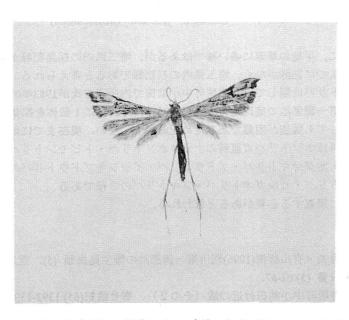
PTEROPHORINAE

カマトリバガ亜科

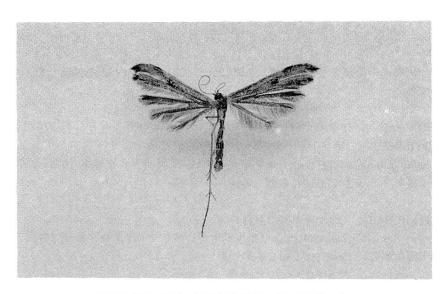
Emmelina jezonica (MATSUMURA) ヒルガオトリバ

カタログ番号 2075

春日部市梅田本町 1 ex.,1997.08.14, 萩原 昇;



1997年6月21日に春日部市緑町で採集したエゾギクトリバPlatyptilia farfarella (ZELLER)



1997年8月14日に春日部市梅田本町で採集した ヒルガオトリバ*Emmelina jezonica* (MATSUMURA)

上記の2種ともに、平地の草原に多い種ではあるが、埼玉県内の採集記録が少なく、ヒルガオトリバは、これまでに記録がなく、埼玉県内の初記録であると考えられる.

また,エゾギクトリバに関しては, 寄居町中小前田で内田正吉氏が1983年08月20日に1個体を, 戸田市道満の第一調節池で築比地秀夫氏が1995年10月28日に1個体を採集している.

トリバガは採集しても展翅が困難であるため記録がすくない。現在までに埼玉県内で記録されているトリバガ科はホソトリバガ亜科のナカノホソトリバ・トビモントリバ・エゾギクトリバ・アイノトリバ・オダマキトリバ・ブドウトリバ・イッシキブドウトリバの7種,カマトリバガ亜科はヨモギトリバ・ヒルガオトリバ・フキトリバの3種である。

今後, ていねいに調査する必要があると思われる.

参考文献

萩原 昇・築比地秀夫・有山智樹(1996)荒川第一調節池の陸生昆虫類 (5). 荒川第一調節生物 等調査報告書 (5):62-87.

内田正吉(1992) 寄居町中小前田付近の蛾(その2). 寄せ蛾記(65):1392-1397.

(はぎわら のぼる 〒344-0053 春日部市梅田本町 2-9-3)

.

春日部市でウスミドリナミシャクを採集

萩原 昇

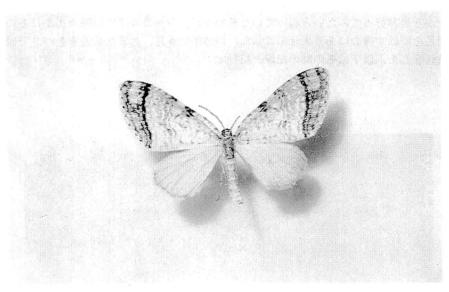
筆者は、埼玉県で2例目の採集記録と思われるウスミドリナミシャクを春日部市緑町の春日 部市立緑中学校の校内で採集したので、その記録を報告する.

Larentiinae ナミシャク亜科

Episteira nigrilinearia (LEECH) ウスミドリナミシャク カタログ番号 2386 春日部市緑町5丁目9番38 1 ♂,1997.11.21,萩原 昇.

なお,本種を神部正博氏が1982年8月11日に草加市柳島町で1♂採集しており,この神部の記録が埼玉県に於けるウスミドリナミシャクの初記録と考えられる.

本種は、イヌマキを食害することが知られており、イヌマキは庭木として植栽されていることが多いため、住宅街でも採集されたのだと思われる.



1997年11月21日に春日部市緑町5丁目9番38で採集した ウスミドリナミシャクEpisteira nigrilinearia (LEECH)1♂

参考文献

神部正博・松井安俊・松井英子(1996)草加市とその周辺の蛾類 . 寄せ蛾記80号;2144-2157.

(はぎわら のぼる 〒344-0053 春日部市梅田本町2-9-3)

1998年1月

.

身近に見られる東洋熱帯の蝶(3)

塘 久夫

3. インドネシア

インドネシアは無数の島々から成る国ですが、手軽に行ける島としては首都ジャカルタのあるジャワ島と観光立国の島バリ島でしょう。特にバリ島は日本からの直行便もあり日本人観光客の多い島です。バリと言えばインドネシアでは珍しくヒンズー教の民の島で、各所にヒンズー寺院がある他、ジャワ更紗や金銀細工、木彫り工芸など民芸もさかんで、またケチャックダンスやバリハイクルーズあるいはビーチでのマリンスポーツといったように観光資源にも恵まれた島で、島全体が一大リゾート地帯です。ですからあちこちで観光開発が進んでいて野性味あふれる熱帯の大自然は望むべくもありませんが、それでも島の内陸部には3000m級の高山もあり、山の中に入ればまだまだ豊かな自然も残されています。一方ではこの島と隣のロンボク島の間にはウオーレス線が通っていて生物相が全く変化する境界としても興味深い島です。私も前々から是非行ってみたいと思っていた島ですが、ジャカルタには時々出かけるのに、バリにまで足を伸ばす機会はありませんでした。1995年の6月、たまたま週末をバリで過ごす機会に恵まれました。以下はその時の記録と紀行です。



写真1 ライステラス(棚田)を縁取る椰子とバナナ(インドネシヤ・バリ島・ウブドー 1995.6.23)

3-1 ウブドー

ウブドーは中部山岳地帯の入口にあたる山あいの村です。この村は美術館が多く、芸術家の村としても知られています。バリ島もこのあたりまで来るとライステラスと呼ばれる美しい棚田が広がり、棚田の縁取りはバナナや椰子の木、そしてその奥にはまだ手つかずの森も少しは残っていて、ちょうど今から30~40年ほど前の日本の田舎の風景を彷彿とさせます。もっともお米は二~三期作だそうで、田植えをしたばかの田圃があるかと思うとその隣では稲刈りの真っ最中などという光景に出くわしてちょっと奇妙な感じはします。

ウブドーの西の村はずれの渓谷ぞいにアマンダリンホテルというリゾートホテルがあります。森の中の小径をぬっていくと突然森が開け、小じんまりとした二階建ての建物が見えてきます。個人の邸宅のようにも見えますが一泊4万円から8万円もするという超高級ホテルだそうです。(この値段は物価水準の低いインドネシアにあっては、信じられないくらいの高さです!もちろん私はこんなホテルには泊まれませんでした。) ホテルに向かう森の中の小径にはガランピルリマダラが飛んでいました。

半屋外のホテルのレストランで昼食中、中庭の樹の花にはひっきりなしにキシタアゲハが来ていました。せせらぎの方から蝶道が出来ているような感じで、周期的に飛来し、蝶道の途中のホテルの中庭の樹の花で一休みに吸蜜しているような感じです。キシタアゲハが集まってくる光景は中々豪華で見応えがありました。良く見ているとキシタアゲハは2種類いて、キシタアゲハとアンフリサスキシタアゲハのようでした。

[記録]

(1995-6-23) ウブドー 晴

ナガサキアゲハ 5 ベニモンアゲハ 1 ウスキシロチョウ 多 タイワンキチョウ 多 シロウラナミシジミ (Jmides alecto) 2 ホリイコシジミ 2 オオゴマダラ 1 ガランピルリマダラ 1 スジグロカバマダラ 4 コウラナミジャノメ (Ypthima baldus) 3

交通ガイド

ウブドーはバリの中心都市デンパサールからは北東へ25km, リゾートホテルの立ち並ぶヌサドウアからは45km, 車で1時間から1時間半くらいで行けます. クタからは直行のシャトルバスも出ているようです.

3-2 バツカル山

バツカル山はヌサドウアから北西へ70km, バリ島のほぼ中央に位置する標高2276mの山です。さすがにこのあたりまで来ると、観光客の姿は全くありません。途中通過する山里の村では、道の真ん中に豚や鶏が陣取っていたり、村人が頭の上に大きな荷物を乗せて上手に調子を取りながらヒョコヒョコ歩いていたりします。川では大人も子供も素っ裸で水浴びをしてるかと思うと、すぐその隣では洗濯をしています。全く田舎の風景です。ガタゴト道を2時間ほど走ってようやく登山口のあるバツカル山に着きました。ヒンズー教では山は神聖な場所だそうで、入山前に登山口の手前にあるヒンズー寺院にお参りをし、腰に黄色い帯を巻いてから山道に入ります。山道に入るとすぐに渓流を渡りました。ここにはヒメキミスジがたくさん飛んでいました。この蝶、木陰で止まっている時は一瞬アオタテハモドキのような模様に見えますが、

日の光を浴びて翅を開くと黄色い三筋蝶に見えます。面白い蝶です。渓流を渡りきると再び開 けた場所に出ましたがここはコーヒー農園です. 山の中で突然農園が出てきたのでびっくりし ましたが、農道の端の草地にはクロタテハモドキやツマムラサキマダラが見られます。高木の 花にはミカドアゲハのようなタイマイ系のアゲハチョウやヘリグロカザリシロチョウ(仮称) もひっきりなしに飛来していました. このあたりでは中型のシロチョウはウスキシロチョウは ほとんどおらず、DeliasやAppiasの仲間が多いようです. 路傍の草はらにはリュウキュウウラ ボシシジミも群れていました。この蝶、日本では八重山あたりで見られる蝶で、西表島では渓 谷をキラキラと飛んでいたという印象がありましたが、ここでは乾いた草原をウジャウジャと 飛んでいて、ありふれた地這いシジミです、この草地から先は本格的な山道になり、樹林帯の 中に入りグングンと高度を上げます。赤道直下のバリ島ですが、ここは標高が高いせいか暑さ は感じません。 歩いている時は汗が吹き出しますが、休むと汗がスーッと引いていきます。 気 温はせいぜい25℃くらいでしょうか.しかしうす暗い樹林帯の中にはほとんど蝶は見られませ ん、所々にある木漏れ日の差し込んでいる場所ではラリムナミスジやイナズマチョウなどが見 られ、下草付近ではオレンジ色の目立つナミマルバネワモンチョウや各種のジャノメチョウが 見られますが蝶の数は少なく面白くありません、やはり渓流ぞいの方が良かったようです、帰 路に再び渓流ぞいを歩きました。相変わらずヒメキミスジは数が多く、コノハチョウのような タテハチョウやネフテミスジ,クロセセリなども見られました。ネフテミスジという蝶は一見 日本のミスジチョウと似ていますが、良く見ると胸や胴体の部分にも白筋模様が入っていて、 翅を開くと三本の白筋が完全に連続します. 芸の細かい蝶です.



写真2 ホテル中庭の樹の花に来たキシタアゲハ (インドネシヤ・バリ島・ウブドー 1995.6.23)



写真3 下草に止まるヒメキミスジ (インドネシヤ・バリ島・バッカル山 1995.6.24)



写真 4 バッカル山麓の林道 (インドネシヤ・バリ島 1995.6.24)

[記録]

- (3)1995-6-24 バツカル山 晴のち雨
 - シロオビアゲハ 3 ミカドアゲハ (Graphium 属の1種)9 モンキアゲハ 1
 - *キシタベニシロチョウ (Appiasの1種, 学名不詳)多 タイワンキチョウ 多
 - ベニモンシロチョウ (Delias hyparete) 1 *ヘリグロカザ
 - リシロチョウ (Delias 属の1種, 学名不詳) 多 シロウラナミシジミ 8
 - *チビイシガキシジミ (Cherosonesia 属の1種? 学名 不詳)
 - *リュウキュウウラボシシジミ 多 オオゴマダラ 1 シロモンルリリマダラ 1
 - *ツマムラサキマダラ 5 *ネフテミスジ (Neptis nefte) 1 *クロタテハモドキ 多
 - *ヒメキミスジ (Symbrenthia hypselis) 多 ムラサキコノハチョウ? (Kallima 属の1種) 2
 - *ラリムナミスジ (Atyma lalimuna) 3 *ナミマルバネワモンチョウ (Faunis canens) 多
 - *カバイロコジャノメ(Mycalesis属の1種)多
 - *キレバヒトツメジャノメ (Mycalesis horsfieldi) 多 *コウラナミジャノメ 多 キマダラセセリ 2 *クロセセリ 1 チャバネセセリ 1

交诵ガイド

観光客が簡単に利用できる市内から中部山岳地帯に向かう定期公共交通網はなさそうです。しかしバリ島は観光立国の島ですから様々な企画のツアーが準備されています。デンパサールの空港には色々な旅行会社のツアーのパンフレットがたくさん置いてありますから到着時に5~6枚もらっていきましょう。たいていは24時間受付けていますから、ホテルでじっくりと検討し、夜中でも電話をすれば翌朝には迎えにきてくれます。私は小さな旅行会社の主催するマウンテンジャングルトレッキングなるツアーに申し込んでみました。最少敢行人数2名と書いてありましたが、二人分の料金を払うと言うとOKしてくれました。ガイド付き昼食付きで一人分45ドルですから2人分でも7000円ちょっと。(当時は換算レート1ドル=80円)朝早く7人乗りのミニバスでホテルまで迎えに来てくれました。客は1人ですから車をガイド付きでチャーターしたのと同じです。しかも客は1人きりなので本来のツアーコースからはずれて客の希望も自由に聞いてくれますから、タクシーをチャーターするよりも割安で安心でした。 ヌサドウアからバツカル山麓(中腹)の登山口までは車で2時間、登山口から山頂までは徒歩で2時間半くらいです。しかし山の中に入ると、最後まで樹林帯が切れず蝶の数が少ないので、山頂を目指さず、登山口周辺を散策した方が面白いかもしれません。

●シリーズ終わるにあたって

現在はトリバネアゲハはもちろんアカエリトリバネアゲハ、キシタアゲハは採集が禁止されています。標本の国外持ち出しも認められていないはずですが空港や町なかの土産物店ではこれらの蝶の標本が売られています。おそらく飼育標本でしょう。ところでこういう蝶の標本の値段ですが、面白いことに時としてトリバネアゲハやキシタアゲハよりもメスジロキチョウやツマベニチョウの方が高いこともあります。どういう基準で値段がつけられるのでしょうか?

(つつみ ひさお 〒345 南埼玉郡宮代町宮代台1-20-15)

.

中津川天牛記 その2

石蔵 拓

1994年の6月

カミキリムシ (天牛) の種数を増やすために採集情報を元に各地を飛び回るのもおもしろいと思いますが、資金と時間に恵まれない小生は、ある地域に限定して天牛をどれくらい見られるか、徹底調査するのも修行になると思いました。あまりカミキリ屋が行かないと言う奥秩父を1994年から訪れるようになったのですが、初めから思わぬ車のトラブル等で奥秩父との出会いは悪く、これ以上奥秩父へ採集に行くか否か迷っていました。

6月4日 早朝6時自宅出発。

午前10時頃、小鹿野町坂本へ到着. 晴れ (*):観察目撃を示す

この付近は2回目なので 少し目が慣れてきたようだ.

クロハナカミキリ,ヤツボシハナカミキリ,アカムネクロハナカミキリ,ホタルカミキリ,キスジトラカミキリ,ダイミョウコメツキ(葉SWEEPING),*アサキマダラ.

アカムネクロハナカミキリは花ではなく、草に静止していた。花には来ないようだ。

午後 両神村へ

キスジトラカミキリ,ナガゴマフカミキリ,ヨツキボシカミキリ,キクス/カミキリ,ヘリグロリンゴカミキリ,チャイロホソヒラタカミキリ,ホソナガタマムシ,ヤホシゴミムシ

今夜は坂本付近の空き地で車泊する.

6月5日 晴れ

早朝、坂本から志賀坂峠に車を進めた。気になる林道を発見、狭い道のようだ。車のパンクが頭をよぎり、車を降りて歩いて林道探索へ、しばらくして猛スピードでくる大きなトラックに出会った。この道はどこか地図にある道へ繋がっていると思った。思い切って車で前進することにした。この林道はあとで金山志賀坂林道(全長約16KM)とわかる。国道299号の志賀坂峠から河原沢一八丁峠-落合橋-小倉沢地区-中津川林道とつながっている。モミジやカエデがこの林道沿いにあるが、植林したばかりのようだ。

9時頃 八丁峠のトンネル付近(標高1500以上・ 志賀坂峠から約7.5km) 朝霧がでていた。

アカネカミキリ, ビャクシンカミキリ3頭(伐採されたヒノキの大木が置かれた土場に飛来)

ビャクシンカミキリは多数飛来した、なぜか全頭採集する気にはならなかった。

11時頃 落合橋付近

ヨコヤマトラカミキリ 1頭 採集

ヨコヤマトラ君はガードレールで日向ぼっこをしていた。ヨコヤマトラは材の採集で確実に採れるので普通種だと言う人がいる。しかし野外での採集は希少で、オオトラカミキリと同じようにまったくの偶然が多い。ルリボシカミキリとヨコヤマトラは日本の固有の特産種で、日本のカミキリのシンボルだそうだ(カミキリ図鑑より)。ヨコヤマトラが採れた日は赤飯を炊くというカミキリ屋がいると聞いたことがある。蟻に似た小粒で神秘的な、いでたちのカミキリだ。 その他トゲヒラタハナムグリ採集。

14時 小倉沢地区の製材所

オオマルクビヒラタカミキリ、ホソトラカミキリ、オオナガゴミムシ

夕方 再び坂本へ戻る.

シナノクロフカミキリ (志賀坂林道) ナガアナアキゾウムシ (坂本付近)

6月11日 晴れ

坂本,志賀坂金山林道と採集したが、いい成果は得られなかった。単純な理由ではあるが、 このような訳で、余りこの地に興味を持てなかった。 せっかくだから、まだ1度も行っていな い中津川林道を1度行くだけ行ってこの奥秩父地方の採集をやめようと思った。

5時自宅出発-8時すぎに、生まれて初めて中津川林道を訪れた。

早朝でも3時間以上はかかる。林道は樹相も貧弱で、道はかなりの悪路・半分は岩でできた道である。車は15KMの速度でしか進めない。いつタイヤが破裂してもおかしくない。しばらく前進して車を止めて林道を歩くことにした。こんな砂漠のように荒れた林道だからカミキリ屋が採集に行かないのだろうか?

何も見つけられない. 花もない. あきらめてこの林道を引き上げようとした. その時ある. 伐採木でミドリカミキリを発見する. 今年初めてカミキリらしいものを見た. アオカミキリ (1993年両神村で採集) よりミドリカミキリの方が好きだ. どうしても小生が採りたいと思うオオアオカミキリに似ているからだろう.

ミドリ君は私が近づいても逃げない。ゆったりと飛ぶ、飛行姿勢はムササビのようだ。手掴みするとアオカミキリ族の持つ独特の麝香(?)のにおいがする。 5,6頭は飛来した。私はこの林道を引き上げるのをやめた。ここのカミキリ相はおもしろそうだ。そして中津川林道を何度も歩いて往復した。伐採木は林道沿いに点在していて次のようなカミキリ達と出会った。

午前

ミドリカミキリ. シロトラカミキリ

午後

カラカネハナカミキリ, ヤツメカミキリ, ヒメナガサビカミキリ, アトジロサビカミキリ, アトモンサビカミキリ, ナカジロサビカミキリ, ゴマダラモモブトカミキリ, キスジトラカミキリ, トガリバアカネトラカミキリ, ゴマフカミキリ, タテスジゴマフカミキリ、ヨツキボシカミキリ

16時頃

ルリヒラタムシ, エサキオサムシ

17時頃

キモンカミキリ、オニグルミキモンカミキリ、チチブニセリンゴカミキリヤツメは静かに材に来た。トホシ族(Saperdini)の仲間は直接材に飛来しない。葉や草を経由して来るようだ。だからいつのまにか材にいる。キモンカミキリ、オニグルミキモンカミキリは夕方の薄暮に伐採木(オニグルミ)に上下運動をしながら止まる。まるでガガンボのような飛行姿勢だ。薄暮の中を白い糸が飛んでいるようなもの。よく見ないと見落とすぐらいに見にくい。

今日は実りある1日だった.

この林道の採集効率は悪いが、次にどんな天牛に会えるか期待させるものがある。

6月18日 曇り

また3時間以上かけて奥秩父へ.

午前 両神村

ナガゴマフカミキリ,キイロトラカミキリ,*エグリトラカミキリ, *キスジトラカミキリ

キイロトラは大発生していた.

午後 中津川林道

トガリバアカネトラカミキリ,チャボヒゲナガカミキリ,カタジロゴマフカミキリ,キモンカミキリ,オニグルミキモンカミキリ,*ゴマフカミキリ,カラカネハナカミキリ多数,シラホシカミキリ,ルリヒラタムシルリヒラタムシは材をはい回っている。19時に雨が降り出したので帰る。

6月25日

24日の夜10時頃自宅出発. 両神村の夜の街灯をめぐる. 夜中の2時頃 街灯に飛来したシロスジカミキリを採集. カミキリの大型種は夜中の1時以降にライトに来るといわれる. シロスジ君が街灯に当たる音はカブトムシやクワガタのと変わらない. "ドサ"という音がする. シロスジも少なくなった. 山地より平地を好むらしい. 10年後には埼玉県から絶滅するような気がする.

朝 8 時頃 中津川林道

今日は時々雨のためにカミキリ君との出会いは少なかった.

目撃:ヨツキボシカミキリ2頭,カラカネハナカミキリ4頭, ゴマダラモモブトカミキリ2頭,ゴマフカミキリ3頭

採集:ヒラタアシナガコガネ,ヒトオビアラゲカミキリ,セミスジニセリンゴカミキリ,

クワサビカミキリ, アトジロサビカミキリ, ヒメナガサビカミキリ

夕方雨が強く降り出して温度も下がってきたので帰る.

7月以降、次回へ続く (アオカミキリ登場)

(〒114 東京都北区滝野川6-36-5-502 いしくら ひらき)

上尾市におけるコロギスと北本市における クツワムシの記録

長畑 直和

表題のように当地において珍しい直翅類を観察したので報告する.

- 1. Prosopogryllacris japonica コロギス 上尾市原市, 1997.7.5, 1 ex. (成虫)
- 2. Mecopoda nipponensis クツワムシ

北本市石戸宿, 1996.10.12, 鳴き声確 北里病院付近の薮内で夜間複数の個体が鳴いていた、近年当地では急速に減少している.

参考文献

内田正吉 (1995) 北本市の直翅類, 北本市動植物誌:271, 北本市教育委員会市史編さん室

(ながはた なおかず 〒362 上尾市原市11-3 越川グリーンハイツ5号)

埼玉県産半翅類雑記(16)

野澤 雅美

□小川町と江南町におけるツヤアオカメムシ(異翅目:カメムシ科)の記録 ツヤアオカメムシ Glaucias subpunctatus Walkerは、分布域を北に拡大している昆虫として注目しているが、本種はこれまで浦和市・小鹿野町・長瀞町・寄居町・滑川町から記録されている。(野澤・1994)

最近になって本種を小川町と江南町から新たに得たので記録しておく. 江南町の個体は, 勤務 先の県立農業教育センターの網戸に夜間飛来したもので, 当初アオクサカメムシと思い気にもと めていなかったが, 翌朝になっても同所から移動することなく留まっていたので, よくよく観察 したところ本種の雄個体であったので採集した. 今回採集した個体はいずれも灯火に飛来したも のである.

> 小川町仙元山 1994年 8月 6日 1♂1♀ Light-trap 江南町御正新田 1997年10月21日 1♂ Light-trap

□寄居町でキイロサシガメ(異翅目:サシガメ科)を採集する

キイロサシガメ Sirthenea flavipes (Stal) は、本州から南西諸島にかけて分布する東洋区系のサシガメである。前胸背の後部半分・小楯板・前翅の中央部及び腹面両側は、黒褐色であるが、名前のとおり他の部分は黄褐色をした大型の美しいカメムシである。 地表生活者で、水田や湿地に住み小昆虫等を捕食している。

埼玉県内では、これまでに鴻巣市・久喜市・浦和市・日高町そして杉戸町から記録されている にすぎず、個体数の少ない種である。このうち杉戸町の記録については本誌70号(野澤:1994) に報告済みである。

筆者は昨年7月22日午前7時頃、寄居町桜沢にある秩父鉄道桜沢駅の構内において、踏みつぶされた本種の死個体を発見収集した。キイロサシガメは、秩父・大里地域からは未確認の種で、県北西部からは初めての記録と思われるので、分布資料として報告しておきたい。踏みつぶされた個体とは言え、それ程損傷はなく、一見して本種と分かる個体である。桜沢駅周辺にも水田があり、前夜の7月21日の夜間に駅構内の照明に飛来していたものと推測される。

寄居町桜沢(秩父鉄道桜沢駅構内) 1996年7月22日 1♂

□ヒメクビナガカメムシ(異翅目:クビナガカメムシ科)の記録

クビナガカメムシ科はサシガメ科に似た体長5mm程の小さなカメムシで,草の根際や石下に生活し,小昆虫を捕食している.成虫は5月~6月にかけて出現するが個体数も少なく,目にする機会は少ない.

日本産はヒメクビナガカメムシとクロクビナガカメムシの2種が知られている。埼玉県産は、これまで越生町から記録されたヒメクビナガカメムシ Hoplitocoris (Pseudenicocephalus) lewisi Distant の幼虫について、本誌37号(野澤:1982)に報告がある。しかし、成虫に関する報告は未だ無いようなので2ヶ所から得た記録を整理しておく。

皆野町のものは、最近になって所蔵標本を整理している最中に検出したものである。また、嵐山町の個体は館跡の倒木の地際で採集したものである。

皆野町三沢 1982年6月19日 1♂ 嵐山町菅谷(館跡) 1997年6月14日 1♂

(のざわ まさみ 〒369-12 大里郡寄居町桜沢2506-4)

.

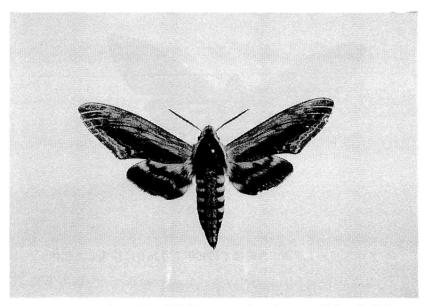
川口市道合でコエビガラスズメを採集

中川 利勝

筆者は、川口市道合において、コエビガラスズメ Sphinx constricta を採集しているので報告する.データは以下の通りで、標本は筆者が保管している.

コエビガラスズメ Sphinx constricta 1♂ 川口市道合 22. VII. 1997

この個体は、夜間、集合住宅入口の照明に飛来した個体である。本種は、近年、住宅地に植栽されてるイヌツゲを食樹としつつ、市街地へも進出してきている。採集された個体についついても、採集場所から2mほどのところに、一面にイヌツゲが植栽されてた中庭があることから、この地で発生した可能性もある。



コエビガラスズメ:川口市道合にて1997年8月22日に採集した個体

(なかがわ としかつ 〒333 川口市道合22-1-302)

.

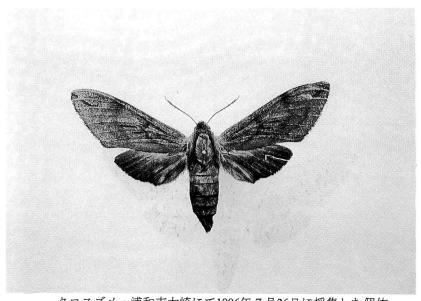
浦和市大崎のクロスズメ採集記録

中川 利勝

筆者は、浦和市大崎において、クロスズメ Hyloicus caligineus を採集しているので報告する. データは以下の通りで、標本は筆者が保管している.

クロスズメ Hyloicus caligineus 1 ex. 浦和市大崎 26. VII. 1996

この個体は、日中、大崎公園内のエノキの樹幹に静止しているところを採集したものである。 因みに筆者は、1991年にも、浦和市南部領辻の見沼代用水東縁の斜面林で、クロスズメを確認している。



クロスズメ:浦和市大崎にて1996年7月26日に採集した個体

<参考文献>

中川 利勝 (1993) 浦和市南部領辻のクロスズメ採集記録,寄せ蛾記66;1449

(なかがわ としかつ 〒333 川口市道合22-1-302)

小倉沢のムモンアカ復活

石塚正彦

小倉沢は両神山の南山麓の谷で中津川に次いで埼玉では貴重な種を産するところである。中 津川ほど調査されて無く、特に小倉沢に入る手前を左に逸れていく、広河原沢など未知の世界 が多い、筆者も埼玉では絶滅に近い状態と思われるヒメシジミを何とか見つけようと、現在、 この付近を調査の中心にしている。何方かヒメシジミの情報をもっておられる方がいたら是非、 連絡していただきたい。

ムモンアカシジミの分布については筆者が寄せ蛾記 (69):1551で報告しているとおり大滝村川俣,三峰山,上中尾,そして小倉沢の4カ所で確認しているが,最も個体数の多かった川俣については環境は全く変化してないものの,最近は目撃すら出来ず,幼虫期の調査も実施しているが確認できてない。三峰山についても93年に採集した以降,毎年訪れているが95年8月6日に一度,目撃しただけである。上中尾については発生地を離れた個体を偶然採集出来ただけの所で、付近に発生地はあると思うが、その後は調査していない。

そんな中、ここ小倉沢の発生地は唯一個体数も多く安定した生息地になるのではないかと期待していた場所であった。それが何と1993年道路の拡張工事で発生地が破壊され、これで埼玉で確実にムモンアカが見られるところが無くなってしまって、がっかりしていたところであった。

そして、1995年8月20日コキマダラの発生状況を観察するため、会員でもある蝶友の加藤輝年氏と小倉沢を訪れた。そこで予定通りコキマダラを二頭観察し、さて帰ろうかと車に向かって歩いていると後ろからオレンジ色の蝶が頭の上を通り過ぎた。「ムモンアカだ!!」「オー、ここで生き延びていたのか」その後、加藤さんがヒメジオンに止まっているものを、筆者がノリウツギに止まっているものを計二頭採集することが出来た。そして翌年1996年は、8月17日、8月25日、9月1日と3回にわたりホストの確認、人工採卵の為の母蝶採集と小倉沢を訪れた。この母蝶採集については当初全く計画しておらず、8月17日にノリウツギに止まっているムモンアカを採集し、ネットの中で胸を押した後に雌であるのに気付き、その時初めて採卵用にすれば良かったと思った。時既に遅し、それから何とか雌を採ろうと頑張ったが、こんな時に限って、採れるは雄ばかり、そして陽が傾きタイムアウト。

その時思ったことであるが、筆者の秩父地方におけるムモンアカの活動時間帯のピークは午後12時~2時で3時を過ぎると殆ど見られなくなると思っていた。しかし、ここは個体数が比較的多いせいか、3時を過ぎても飛んでいる数は少ないものの、パラパラと活動が見られた。

今回の観察で気付いたことであるがムモンアカの飛翔に、何か蝶道があるようで、決まった位置を通過して飛んでいるのが $2\sim3$ 頭見られた。筆者が、その蝶道?と思われる付近で待ち構えていると、 $4\sim5$ mの高さで飛んでいたムモンアカが、どうも筆者の2 m先のススキのところで、急降下してから飛び去っていく、「おかしいなぁ」と思い、そのススキをよく見るとアブラムシが付いており、それに蟻が来ていた。この蝶道?はムモンアカが蟻のいるところを

何か感じ取って形成されているのではないかと思った.

翌年1997年5月10日今度は何とか幼虫を探し出せないかと小倉沢を訪れた.ホストと思われる木は確認していたので、その木を目指して、道のない藪の中に足を踏み入れた.ホストの木はミズナラ、ヌルデではないかと考えていた.その中でもミズナラには特に多くの個体が飛んでいたのでメインのホストと考えていた.ヌルデには時期が早いせいか、思っていたより蟻が付いて無く、幼虫は発見出来なかった.しかし、ミズナラには、沢山の蟻がついており、これはと思い、ミズナラの木の高さ1~2m付近を一生懸命探していたが、発見出来ず、あきらめて他の木を探そうかと移動しかけた時、何となく木の下の方に(地上30~40cm)目をやったところ、樹液が出そうな樹皮がめくれ、茶色になっている所に蟻が集中しているのが見られ、その蟻の塊の下10cmのところに、何と茶色をしたムモンアカの2令幼虫が10匹前後の蟻を従え移動していた.始めて見るムモンアカの幼虫なので本物かと疑いながら採集した.その後、他にも蟻のついている木はないかと探したところ、去年は気が付かなかったが、付近にヤマハンノ木が5~6本生えている所があり、そのヤマハンノ木、全てに沢山の蟻が付いていた.よく見ると地上30~150cmのところに、どの木も5~10個、多い木には15個以上ものムモンアカの卵が付いていた.これも始めて見たのだが、想像していたよりも卵が大きく驚いた.そして、この卵をよく調べてみると9割方が孵化しておらず、ムモンアカの孵化率の悪さを実感した.

持ち帰ったムモンアカの2令幼虫の飼育は当然、初めてなので苦戦した。餌としては一緒に採ってきたミズナラの若葉とアブラムシとカルピスウォーターを与えた。アブラムシも筆者の家にあるバラに付いたもの、ツメレンゲに付いたものを与えた。最初カルピスウォーターはよく飲んだが徐々に飲まなくなり、又、ミズナラ、バラの若葉にも喰痕はあったものの、それ程、食べている様子はなく、又、アブラムシも殆ど食べている様子はなかった。しかし、飼育ケースの中は元気良く動き回わっていた。4日目当たりから動かなくなったので、そろそろ3令になるのではないかと思っていたが、結局そのまま死んでしまった。畜生と思いながら、再び採幼を決意した。

5月25日再び小倉沢を訪れた.前回、新たに沢山の卵が付いている木を確認していたので今 日は2~3、採幼出来るだろうと皮算予しながら藪の中に入った. 最初に前回, 採幼している 木を見ると、全く同じところに、今度は3令幼虫がいた、木の上の方にもいないかと調べて見 たが、結局その木からは1幼だけだった。そして期待しながら、前回、沢山の卵が見つかった ヤマハンノ木へ移動した。しかしそれらの木からは全くムモンアカの幼虫は発見できなかった。 幼虫はみんな木の上のアブラムシのいるところに上がったままなのだろうか?そんなことを考 えながら小倉沢を後にした. 話は180度変わるが、最近秩父市街地付近ではミヤマチャバネセ セリ、ギンイチモンジセセリ、アサマイチモンジの姿を見かけなくなった。(ギンイチモンジ の記録はないが) 又, イチモンジセセリも秋にしか見られない. それが, ここ小倉沢は5月に ミヤマチャバネ,ギンイチモンジセセリ,イチモンジセセリの姿が見られる.ミヤマチャバネ、 アサマイチモンジは県南方面では見られるのに、なぜ秩父市街地付近では見られなくなってし まったのだろうか?ギンイチモンジにしても県南方面と小倉沢で見られて、なぜ秩父市街地付 近では見られないのだろうか?イチモンジセセリは秩父市街地付近では夏から秋にかけて個体 数を増して行くが,なぜか春には見られない.それが春,小倉沢で見られた.同様に大滝村の 栃本でも春、見られ、イチモンジセセリは一体何処で冬を越しているのだろうか?秩父市街の 暖かい地で冬を越さず、この寒い小倉沢で冬を越しているのだろうか?

1998年1月

話はムモンアカに戻るが持ち帰った幼虫を今度は上手く成虫まで飼育しようと悪戦苦闘した.前回アブラムシの種類で失敗?しているので今度は実際に野外より、採集することにした.筆者の勤める会社付近(秩父市寺尾)は、まだ雑木林が沢山残っており、定期的に伐採もされ良い環境が残っている。そこでアブラムシを採集しようと伐採後二年目の雑木林を訪れた。しかし、約50mの距離の両側の木を探したところ、アブラムシの付いている木はたったの一本であった。その木はコナラで、その木より黒色したアブラムシを採集した。その後、これでは少な過ぎるので伐採後一年目の雑木林へ移ったところ、そこでは4割ぐらいの木にアブラムシが付いていたので黒色のもの、白色のものを採集した。

又々、ここで話は変わってしまうが、秩父地方におけるクロシジミは1960年代頃までは見られたが、最近は全く見られず(一部、どこどこで採れたという話を聞き、探してみたが発見できなかった)それ程環境も変わって無いのに、なぜ、いなくなってしまったのだろう?そこで今回のアブラムシの採集で思った。原因はアブラムシがいなくなり、それにより木に付く蟻がいなくなりクロシジミもいなくなってしまったのではないだろうか?筆者はクロシジミを見たこともなく、生息する環境をも見たことが無く、又、アブラムシに対する知識もなく、どういう条件でアブラムシが発生するのか、伐採後二年目では普通アブラムシは余り付かないのかもしれないが、筆者の空想として、そんな気がした。

蟻がいなくなったということで思い出したが、秩父地方のアサマシジミ(1976年以降)、ミヤマシジミも見られなくなってしまった。これらの種も幼虫採集してみると分かるが、幼虫を探すよりも蟻を探した方が早い、シジミチョウ全般に言えることかもしれないが、非常に蟻との関連性がある。これら2種の原因も蟻に関係があるような気がしてならない。これも筆者の空想として聞き流して欲しい。

話はムモンアカに戻るが採集してきたアブラムシを早速、幼虫に与えた・すると今度は食べるは食べるは、これでやっと一安心・幼虫の摂食行動として気付いたことだが、幼虫がアブラムシを食べる際、それも体長2~3mmもある様な大きなアブラムシを食べる時である。何しろ幼虫は良く動き回る。そのうち、アブラムシを見つけると、幼虫はそのアブラムシに覆い被さり、まるで柔道の押さえ込みのような状態になり、窒息死さてから食べているように見えた・見えたと言っても覆い被さっているので実際にはどうなっているか分からないが、捕まえてから、食べ始めるまでの時間が掛かっていたように思えたので、そのように見えたのかもしれない。その後もアブラムシ採集に追われ、悪戦苦闘の末やっと7月1日に羽化に至った。筆者もいろいろと飼育したことがあるが、二度とムモンアカの飼育はやりたくないと思った。又、昨年人工採卵に失敗しているので、今年も挑戦したいと考えていたが、この経験で、現在どうしようか思案しているところである。でも結局挑戦すると思うが。

採集データ			
1995年8月20日	4頭目撃 1♂採集	埼玉県秩父郡大滝村小倉沢	筆者採集保管
1996年8月17日	8頭目撃 1♂1♀採集	JI .	"
1996年8月25日		<i>11</i>	"
1996年9月1日	10頭目撃 1♂1♀採集	<i>II</i>	"
1997年5月10日	1 幼(2 令)採集	JJ	飼育失敗
1997年5月25日		JJ	7月1日1♂羽化

(いしずか まさひこ 〒368 秩父市上町1-1-17)

埼玉県下におけるトンボ類の採集記録(5)

西田 彰

1997年4月から1997年10月までに埼玉県内で採集したトンボ類の記録を報告する. 採集したものに限定し、筆者以外の採集者は()内に示した.

「イトトンボ科]

ベニイトトンボ

岩槻市赤坂沼:1♂ 1997.7.24

今年は例年になく数が少なかったように思う.また、ほぼ同時期にわずかながら見られるキイトトンボはまったく目撃していない.

アジアイトトンボ

草加市八幡町:10 12 1997.4.13

「カワトンボ科]

ハグロトンボ

北本市石戸宿:13 1997.7.5

ヒガシカワトンボ

飯能市平戸:19 1997.5.5

[ムカシトンボ科]

ムカシトンボ

小川町古寺:1♂ 1997.4.27, 飯能市平戸:1♀ 1995.5.5

[サナエトンボ科]

ナゴヤサナエ

北本市石戸宿:13 1997.8.4; 13 1997.8.10

コサナエ

東松山市上唐子:1♂ 1997.4.27

ダビドサナエ

小川町古寺:1♂ 1997.4.27, 飯能市平戸:3♂ 1997.5.5, 飯能市南川:1♂ 1997.6.8

ヒメクロサナエ

飯能市平戸:29 1997.5.5

オナガサナエ

東松山市上唐子:1♀ 1997.7.7

ヒメサナエ

飯能市平戸:2♂2♀1997.7.7

交尾, 産卵を含めて, かなりの数が林道上や渓流上で見られた.

[ヤンマ科]

ネアカヨシヤンマ

北本市石戸宿:1♀ 1997.7.5 ;1♀ 1997.7.24;2♂ 1997.8.1

カトリヤンマ

北本市石戸宿:13 1997.8.10

ヤブヤンマ

飯能市多峰主山:23 1997.7.7; 43 1997.7.16

マルタンヤンマ

北本市石戸宿:13 1997.8.2

ギンヤンマ

岩槻市赤坂沼:1♂ 1997.7.24

[エゾトンボ科]

コヤマトンボ

′ 北本市石戸宿:1♂ 1997.7.5

タカネトンボ

飯能市多峰主山(雨乞池):2♂2♀1997.7.16

池の周囲の草などで羽化殻も採集した.

[トンボ科]

シオカラトンボ

北本市石戸宿:19 1997.8.10

リスアカネ

岩槻市村国:2♂2♀1997.10.10

日の当たる場所からやや薄暗い茂みの中に連結したペアが次々に飛来し、ほとんど湿り気のない地表近くで打空産卵していた。1頭だけ、単独で現れて産卵場所を探す様子を見せた雌があったが、産卵には到らなかった。

ネキトンボ

飯能市平戸:1♀ 1997.7.7 (勝田 徹)

オオキトンボ

深谷市中瀬:43 29 1997.10.12:13 19 1997.10.19

利根川の対岸の群馬県境町でも確認した.かなり広い範囲で生息地が点在する可能性がある.

コシアキトンボ

北本市石戸宿:19 1997.7.24

(にしだ あきら 〒340 草加市青柳5-36-21-203)

寄せ蛾記 (85号) 1998年 1月

.

ルリタテハの遅い発生例及び与野市内の記録

星野 正博

.

昨秋,庭の栽培種のホトトギスに3化と考えられるルリタテハの自然発生があったが,幼虫期・羽化期が大変に遅かった.原色日本蝶類生態図鑑(II)のルリタテハの項目には今回よりも更に遅い羽化例(柏市)が記録されているが,珍しい事例と思うので記録しておきたい.

幼虫の発生に気がついたのは1997年10月11日の午後で、既に終齢と思われる個体群に混じって若齢幼虫も1ついたことから2度の産卵があったものと推定された。この日、草の茂った中のホトトギスをざっとながめて20頭弱の幼虫を確認した。1本のホトトギスに2~3頭の幼虫が付いていたが重なり合う部分も有り移動は可能な状態であった。家の北側や道を挟んだ隣家のホトトギス群落には発生していなかった。

翌週10月19日には老熟しており14頭の終齢老熟幼虫と近くのツルに下垂した前蛹を手元にまとめた(屋外). 7日前と比べて4~5頭減少している. 当初鳥の捕食とも考えたが, 既に蛹化の為に食草を離れた可能性も大である.

充分なネットを掛けなかったので幾つか逃げ探し当てた個体をふくめ結局11頭分の蛹を得た。それらのうち2個体はハエの寄生があり、2個体は何かに食害を受け、3個体は羽化せずに乾燥して最終的に4頭羽化した。帰宅後観察して蛹が脱皮殻になっていた日を羽化日とした。蛹化日、羽化日は以下の通りである。標本として採集したのは1頭である。寄生蛹2個の下に落ちたハエの蛹を8個発見した。たぶん1蛹あたり4個体のハエの寄生があったものと思う。

1997年10月19日 屋外発見の前蛹が夕方蛹化 (小型蛹) → 乾燥して羽化せず 室内保管

10月22日 4頭蛹化 → 11月9日 羽化 蛹期18日 室内保管

→ 11月11日 羽化 蛹期20日 室内保管 標本として採集

→ 寄生蝿蛹発見 11月08日 室内保管

→ 寄生蝿蛹発見 11月08日 室内保管

10月23日 2頭蛹化 → 乾燥/腐敗し羽化せず 室内保管

10月24日 2頭蛹化 → 11月16日 羽化 蛹期23日 屋外鉢植え保管

→ 11月17日 羽化 蛹期24日 屋外鉢植え保管

10月25日 1頭蛹化 → 屋外鉢植え保管中 11月17日に行方不明(鳥害?)

11月02日 屋外で1蛹発見 → 屋外保管中に落下し何かに胴部を食害. 11月09日

以上をまとめると前蛹期間は必ず24時間以上かかって蛹化し、蛹化日は10月19日から25日、蛹期は18日~24日、11月9日から17日にかけて羽化した。寒い部屋に置いたとはいえ室内保管の方が温度は高く蛹期が短かったとものと考えられる。目にした羽化個体はすべて秋型であった。

なお11月16日に屋外の鉢植えホトトギス上で羽化した個体は長時間とどまっていたので記録する. 見つけたのは午後であったが、蛹殻の近くで上を向いて静止しているのを撮影したのでたぶん2時頃であったと思う. 翌朝は小雨が降っていたが場所を少し変えて逆さに静止していた. その夜にはいなかった.

10月は観測史上最小の記録的な小雨であったが平均気温は高く、蛹化した10月下旬から最初

の2頭が羽化した11月中旬までは夜間気温は下がったものの昼は10月中旬の陽気が続いた.そ の後は平年並の低温が続いた.

ホトトギスはある建設予定地から1978年頃に移植したもので庭で大変良く繁茂したが、20年の間に今回をふくめ秋季に3回の発生を観た.最初のデータを発見できなかったが、この時は近隣の庭のホトトギスや浦和市瀬ヶ崎の栽培ホトトギスでも発生を観察し、平野部に広く発生したのではないかと感じた.

その次は1991年9月22日頃日当たりの悪い家の北側のホトトギスが完全にルリタテハに食べられ、蛹2つと前蛹1つを食草上で発見した。その時は今回発生した南側では発生しなかった。1991年10月12日に見たところ3頭とも羽化した後だった。発生期としては通常であろう。

与野市内のルリタテハは昔から少ない.近年の記録を示す.地名を記した以外はすべて与野市下落合.

1989年10月29日 朝8時過にサザンカで求蜜 目撃,写真撮影.

1991年09月22日 蛹発見 前述

1992年08月30日 与野市八王子(市内唯一の雑木林)樹液で目撃

1992年10月04日 腐って黄色くなった柿の実に来た 目撃

1994年04月05日 与野市本町 与野公園付近を飛ぶ個体を目撃

1995年10月21日 朝8時頃 門の周辺を飛ぶ個体を目撃.

1997年10月11日 朝 9 時頃 成虫の飛翔を目撃

1997年10月11日 幼虫発見 前述

生態図鑑は秋季にはホトトギスに発生することが多いと記述している。上記のように市街地の記録は秋季に集中している。与野市内では既にサルトリイバラの生育環境は望み薄で、家庭のホトトギスはかなり見かけるが、2化個体群の分散に伴った発生がときどき見られる、と言うのがこの付近の発生状態であろう。

(ほしの まさひろ 〒338 埼玉県与野市下落合5-14-31)

.

クマゼミの声の記録

吉永 潔 星野 正博

埼玉県内のクマゼミの鳴き声の記録はそれほど多くない。都区内では近年ある程度増加しているらしいが、埼玉ではそのような傾向は感じられない。著者の一人、吉永が以下の通りにオスの鳴き声を確認したので報告する。

1997年7月29日 10時,12時,15時頃の3回聞いた

場所 蓮田市黒浜 蓮田高校校庭

確認者 吉永 潔 他、周囲にいた数人で声を聞いた。

(よしなが きよし 〒349-01 蓮田市 西新宿 4-85-18) (ほしの まさひろ 〒338 与野市下落合5-14-31)

埼玉県内で採集した直翅系昆虫

柴田 直之

埼玉県昆虫誌作成の基礎資料として、筆者が県内で確認した直翅系昆虫のうち未発表のもの をまとめてみた。なお(死骸確認)と記述のあるものは標本が現存しない(死骸を持ち帰って いない). 記述のないものは全て筆者の採集品である。

- ○所沢市三ヶ島 21.XI.1996
 - ・マダラカマドウマ 1♀ (オサ堀りで土中から掘り出す)
- ○大滝村滝沢 31.Ⅷ.1997
 - ・ヤブキリ 1♂ ・ハヤシノウマオイ 1♂1♀
 ・ホソクビツユムシ 1♀ ・アシグロツユムシ 1♂ ・カンタン 1♂
- ○荒川村町分 31.VII.1997

・クビキリギス 1♂ ・エゾツユムシ 1♂

- 〇川越市諏訪町 18.X.1997
 - ・ツユムシ 1 ♀
- ○所沢市三ヶ島 18.XI.1997
 - ・ニホントビナナフシ 1♀

(埼玉県初記録. また, この個体は11月中旬の記録にも関わらず多数の卵を持っていた.)

- ○飯能市正丸駅敷地内 26.XI.1997
 - ・セスジササキリモドキ 1 exs.(死骸確認)
- 〇秩父市浦山ダム湖畔 26.XI.1997
 - ・セスジササキリモドキ 2 exs.(死骸確認)
 - ・ヒメツユムシ 1 exs.(死骸確認)

(しばた なおゆき 350-11 川越市諏訪町18-8)

.

コブハサミムシの生態一知見

柴田直之

コブハサミムシAnechura harmandiは樹皮下、石の下などで成虫越冬することが知られているが、筆者は11月下旬にアカガシの休眠芽にしがみついている雌成虫を観察している.

1 ♀ 静岡県裾野市南堀 28.XI.1997

キリシマミドリシジミの越冬卵採集中に発見した.正確な高さ等は覚えていないが,高枝バサミで届く範囲で卵を探していたため、せいぜい4メートルくらいまでの高さであったと思う. 当地は比較的温暖な地域であり、このままの位置で越冬すると言い切ることは出来ないが、可能性としては十分にあり得るであろう.

(しばた なおゆき 350-11 川越市諏訪町18-8)

.

本庄市でオオキトンボを確認

雛倉 正人

オオキトンボ Sympetrum uniforme Selys は、全国的にも比較的稀な平地性の種で、埼玉県内の近年の記録としては、利根川流域の深谷市と荒川流域の川島町のものがある。筆者は本庄市で本種を確認しているので記録しておく。

Data: 本庄市仁手利根川河川敷; 28. X. 1997, 2~3 頭目擊. 2. X. 1997, 1 平採集, 筆者保管.

坂東大橋の東側は広い草原で、一部は畑や採草地として利用されている。当日は埼玉県では産地が 極めて限定されるミヤマシジミがみられ、トノサマバッタのような直翅類も非常に多かった。この河 川敷には柳の木立をひかえた水草の多い池があって、また利根川の本流から派生した緩やかな流れが、 部分的に止水域に近い環境を作りだしている。水底は泥質でなく砂質。池は地元の漁協が管理してい るもののようであり、投網による魚類の捕獲等が禁止されているので、ヤゴの調査などをされる方は 要注意である。

10月28日は快晴で、午前10時30分頃、緩やかな流れの上を敏速に縄張り飛翔する個体を発見。時に岸辺の草の上に静止するが、極めて敏感で捕えにくく、このほかにも池の上を猛スピードで追飛する本種と思われる個体を目撃した。池の周囲には、アキアカネ・ノシメトンボ・ミヤマアカネなどに混じって、ショウジョウトンボもみられ、特にショウジョウトンボの雌は、オオキトンボと初心者は間違いやすいので、目撃による記録には注意を要する。この日は気温が高かったが、午後になるとオオキトンボは姿を見せず、筆者も探索を打ち切った。11月2日は午後2時頃当地に到着。すでに日が陰り始めていて肌寒く、池の付近を歩きながら、草むらから飛び出した個体を採集したが、他の個体は見られなかった。

このほか筆者は、下流の上武大橋(深谷市)・妻沼ゴルフ場付近の浅瀬も1997年に歩いているが、いずれも短時間の探索であり本種を確認できなかった。また、この2地点の中間にある小山川合流点の池は、河川工事で残土の捨て場にされたのか、あるいは川の流路が出水で変わって干上がったのかわからないが、現在は無い。利根川中流部では、文献記録を含めて1995年以来3年連続して本種が確認されており、オオキトンボが安定して今後も見つかるのか、どこが発生源になっているのか興味がもたれる。

過去の本誌における記録の整理

川島町:1990年11月3日,1個体のみ確認

深谷市:1989年9月16日,複数個体確認/1995年9月13日,1個体のみ確認 1996年9月24日,10月13日,10月19日 複数個体確認し、産卵も目撃

なお、さいたまレッドデータブックの中で碓井は、本種について次のような内容のことを述べている。「古くは、1958年から59年にかけて、幸手市で多数の記録があり、1975年には北川辺町から記録されている。川島町では、水生植物の豊富な荒川の河跡湖で観察記録が数例あるが、毎年確実に姿が見られるわけではなく、本種が強い環境選択性を持ちながらもボヘミアン的な生活史を持っているため、本県における生息状況を明確に把握するのは困難である。」

また、神奈川県では1984年に多数の個体が各地で発見されたが、その後突然に姿を消した。本種 の消長が不安定であることは、他の地域でもあてはまることがあるようだ。 寄せ蛾記 (85号) 1998年 1月

参考文献

苅部治紀ほか(1995) 神奈川県レッドデータ生物調査報告書, 昆虫編, トンボ類. 神奈川県立博物館調査研究報告(自然科学)、(7): 187-198.

串田宏人・高野徹 (1996) 深谷市利根川河川敷でオオキトンボを目撃. 寄せ蛾記, 78: 2067 斎藤清 (1997) 埼玉県内でのトンボ類採集記録1996. 寄せ蛾記, 82: 2263-2268.

斎藤洋一(1991) 比企郡川島町でオオキトンボを採集。 寄せ蛾記, 59: 1106.

田中剛(1991) 深谷市でオオキトンボを採集. 寄せ蛾記, 61: 1174.

碓井徹(1996)さいたまレッドデータブック,埼玉県希少野生生物調査報告書,動物編,トンボ目. 埼玉県環境部自然保護課編集,pp. 232-250.

(ひなくら まさと 〒112 東京都文京区白山2-20-13 鯉田井)

.

有馬山周辺のフジミドリの記録

竹内 崇夫

ここ数年春になると、ギフやヒメギフに目もくれず、カミキリの入っていそうな材を捜して 山中をウロウロしている。名栗村の名栗湖から逆川林道を通って秩父市浦山へ抜けるコースは、 小生のこよなく気に入っているフィールドで、昆虫のポテンシャルが高いだけでなく、景観が 抜群に素晴らしく、あまり他の人には来て欲しくない処である。

このフィールドで、蝶屋の習性か、ブナのおいしそうな、水平に張り出した枝をヒョイット 裏返して見つけたフジミドリシジミの採卵記録を報告する.

- ・秩父市有間山西側の逆川林道沿い。12卵 1995.04.11
- ・名栗村有間山南側の逆川林道沿い. 4 卵 1997.03.11

(たけうち たかお 〒330 大宮市丸ヶ崎町10-17)

• • • • • • • • •

利根川土堤上でのシルビアシジミの記録

竹内 崇夫

深谷市北方はネギ畑が拡がり利根川に行きつく. 更にその北方は群馬県になる訳だが, 利根川の真中でスッパリ県境を成しておらず, 群馬県が利根川の南岸を越えている処があって, まさに小生はその辺りの, どちらとも判然としないポイントでシルビアシジミを採っていた. 従って両県での記録とすれば良いと思い, 本県分の記録として報告する.

・深谷市中瀬 利根川土堤上 1 3 1980.10.04

(たけうち たかお 〒330 大宮市丸ヶ崎町10-17)

.

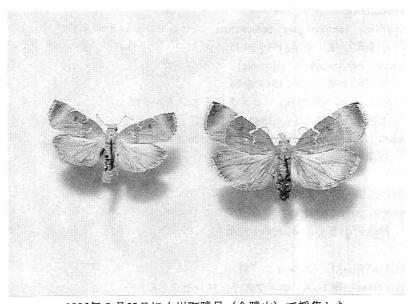
ニシキシマメイガを小川町で採集

萩 原 昇

本種は1986年に矢野重明氏によって、岡山県新見市で初めて採集された.その後、群馬県御荷鉾山や茨城県菅生沼、群馬県桐生市、大間々町などで採集された.

埼玉県内では、市川和夫氏が1990年6月23日に児玉町飯倉で1 みを採集したのが、県内の初記録である。その後、採集された記録がなかったが、筆者は、小川町の金勝山で行った灯火採集で1 \rightarrow 1 \rightarrow 2 を採集したので、写真を添えて報告する。

Mimicia pseudolibatrix (CARADJA) ニシキシマメイガ 小川町勝呂 (金勝山) 1♂1♀,1995.09.23,萩原 昇.



1995年 9月23日に小川町勝呂(金勝山)で採集した ニシキシマメイガMimicia pseudolibatrix (CARADJA) 1 ♂ 1♀

(はぎわら のぼる 〒344-0053 春日部市梅田本町 2-9-3)

寄せ蛾記 (85号) 1998年1月

.

伊奈町とその付近で採集した蛾

氷室 美芳

.

筆者がこれまでに自宅やその周辺で採集した蛾の記録をまとめてみた.

記録は次の順で記述した.

- ・日本産蛾類大図鑑のカタログ番号、学名、和名
- •採集地:個体数、採集年月日.

なお、採集者はいずれも筆者である.

ZYGAENIDAE マダラガ科

[1349] Balataea funeralis (BUTLER) タケノホソクロバ 大宮市上小町:1♀, 1987.08.03; 上尾市平塚:1♂, 1994.05.25.

PYRALIDAE メイガ科

- [1426] Scirpophaga xanthopygata SCHAWERDA ニセムモンシロオオメイガ 伊奈町小室:1♀、1989.09.15.
- [1469] Calamotropha paludella (HUBNER) シロツトガ 伊奈町小室:1♀,1989.09.06.
- [1610] Omiodes misera (BUTLER) ヒメクロミスジノメイガ 大宮市上小町: 1 ex.,1984.09.28.
- [1787] Pyrausta limbata (Butler) トモンノメイガ 伊奈町小室: 1 ex.,1991.06.01.

DREPANIDAE カギバガ科

[2097] Ditrigona virgo (BUTLER) フタテンシロカギバ 伊奈町小室: 1 ♀, 1994.05.24.

GEOMETRIDAE シャクガ科

- [2159] Inurois tenuis BUTLER ホソウスバフユシャク
 - 伊奈町小室: 1 ♂, 1994.03.16.
- [2174] *Dindica virescens* (BUTLER) ウスアオシャク 伊奈町小室: 1 ♂, 1991.05.21.
- [2212] Hemithea aestivaria (HUBNER) キバラヒメアオシャク

伊奈町小室: 1 ex.,1993.05.25.

[2675] Parabapta clarissa (BUTLER) ウスアオエダシャク 伊奈町小室: 1 ex.,1994.05.21.

NOCTUIDAE ヤガ科

- [3442] Viminia rumicis (LINNAEUS) ナシケンモン 伊奈町小室: 1 ex.,1990.07.05: 1 ex.,1990.09.19.
- [3458] Bryophila granitalis (BUTLER) イチモジキノコヨトウ 伊奈町小室: 1 ex.,1990.08.10: 1 ex.,1990.08.19.
- [3499] Ochropleura plecta glaucimacula (GRAESER) マエジロヤガ 伊奈町小室: 1 ex.,1990.07.02: 1 ex.,1990.07.09.
- [3540] Xestia dilatata (BUTLER) ウスチャヤガ 伊奈町小室: 1 ex.,1989.11.07.
- [3566] Sarcopolia illoba (BUTLER) シロシタヨトウ 伊奈町小室: 1 ♂, 1990.06.04.
- [3601] Orthosia munda (DENIS & SCHIFFERMULLER) スモモキリガ 伊奈町小室: 1 ♀, 1991.05.21.
- [3648] Acantholeucania loreyi (DUPONCHEL) クサシロキョトウ 大宮市上小町: 1 ex.1987.05.26.
- [3844] Spodoptera depravata (BUTLER) スジキリヨトウ 伊奈町小室:1♂,1991.05.21.
- [4113] Amyna stellata BUTLER サビイロコヤガ 大宮市上小町: 1 ex.,1987.08.26.
- [4222] Mocis undata (FUBRICIUS) オオウンモンクチバ 伊奈町小室: 1 ex.,1990.09.16.
- [4380] Leiostola mollis (BUTLER) トビフタスジアツバ 伊奈町小室: 1 ex.,1989.06.02: 1 ex.,1989.06.04.
- [4499] Hydrillodes repugnalis (WARREN) ソトグロアツバ 大宮市上小町:1♀,1987.07.19.
- [4500] Hydrillodes funeralis WERREN ヒロオビウスグロアツバ 伊奈町小室:1♂,1989.09.03.
- [4512] *Epizeuxis curvipalpis* (BUTLER) シロホシクロアツバ 伊奈町小室: 1 ex.,1991.06.07.

(ひむろ みよし 〒362 北足立郡伊奈町小室227)

寄せ蛾記 (85号) 1998年 1 月

.

横瀬町「県民の森」でウスタビガを採集

土橋 秀行

• • • • • • • •

1997年10月23日,横瀬町の「県民の森」で夜間採集を行った.この地で前回採集に参加したのは94年10月29日であるから小生にとって丁度3年振りである.

まず、当日の気象データ等を示すと

日時:1997年10月23日(木)

場所:横瀬県民の森(管理事務所すぐ隣の見通しの良い所)

標高:750m

月齢:21.4 (月出 23:13)

温度:14℃ 天気:晴れ,無風

設営:100w水銀灯, 蛍光灯 (プラック1, ケミカル2, 昼光色1)

この時期の気温としては若干低めか、しかし、条件としては良い部類であろう。

17時15分に点灯、キリガ、ヨトウガ、シャクガの類がぼつぼつ飛来してきたが数はあまり 多くない、20時頃ウスタビガのメス1頭、ヒメヤママユ1頭が来た、大型種はこれだけであった、 ウスタビガは「寄せ蛾記No.82」の「県民の森採集調査全記録:利根川雅実・築比地秀夫・ 萩原昇」中、ヤママユガ科の記録がない、また、その後に上記諸氏の他、矢野高広氏にも確認 したが記憶がないとのことであった、従って、当地初記録の可能性が非常に高くなってきた。

3年前の10月29日に築比地、萩原、利根川、柴田の諸氏と実施した時は、アケビコノハ、ムクゲコノハ、エビガラスズメ、フクラスズメなどの大型種が来たのに比べると、今回は少ない、県民の森であるからある程度保護されており、樹相など生態系の変化は余りないと思われるが、やや人口的環境になって来ているのではないか気掛かりである。甲虫はマエモンシデムシ2頭のみであった。

ウスタビガとヒメヤママユを含めて、当日採集した主な蛾は次のとおり. 同定は築比地氏にお願いした.

表 1997年10月23日に横瀬町の「県民の森」で採集したガ類

ウスタビガ	フタテンナカジロナミシヤク		
ヒメヤママユ	ゴボウトガリヨトウ		
フタキスジエダシヤク(埼玉県内2例目)	ケンモンミドリキリガ		
ナカジロネグロエダシヤク	カプラヤガ		
ネグロウスベニナミシヤク	キノカワガ		

頭数はいずれも1ex.

(つちはし ひでゆき 〒177-0053 練馬区関町南4-3-20)

.

オツネントンボ成熟成虫の生態

喜多英人

オツネントンボ Sympecma paedisca Brauer は成虫で越冬するトンボで、春、早い時期から池畔に現れ、交尾、産卵などの生殖行動を行う。本県では、同じく成虫で越冬するホソミオツネントンボ Indolestes peregrinus Ris が、水田や溝川から池沼まで幅広い環境に見られるのに対し、本種は比較的広い池や河川中流域の開放的な淀みなどに生息地が限定されている。

筆者は、秩父郡皆野町国神において、1995年4月から1997年にかけて、本種の主に生殖行動を中心に観察することができたので、以下に報告する.

1. 生殖行動が見られる時期

当地では、♂は早い年では3月下旬から池畔に現れる.交尾、産卵などは5月まで見られるが、4月下旬頃にピークを迎える.

これは、同所においてホソミオツネントンボが青色に変化し、水辺に現れるよりも約1ヶ月

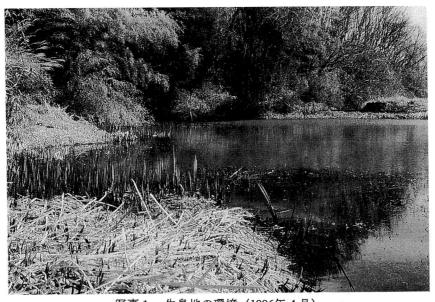


写真1 生息地の環境(1996年4月)

早い. 3月下旬で、オツネントンボの産卵対象物である水生植物(おそらくサトイモ科のショウブ)の新葉は、水面から約10~20cmに成長している.

なお, 当地では羽化や越冬個体及び没姿期の詳細については観察していない.

2. 摂食行動

成熟成虫の摂食行動は、4月上旬頃の生殖行動初期には、池畔に隣接したクリ林の中や林縁の陽だまりで多数観察された。この時期は、新芽が出る前で、林内奥深くまで陽光が降り注ぎ、明るく気温も高い。ここでは、落ち葉や低木の枯れ枝に♂♀混在して静止しており、ときおり飛び立っては、近づく小昆虫を捕食するのが頻繁に見られた。

しかし、生殖行動が本格化する4月下旬頃には、林内でまとまった数を目撃することが少なくなり、成熟度が増すとともに、分散していくのではないかと推測される.

3. みの縄張り占有行動

♂は晴天の暖かい日,池畔の枯れ草や枯れ枝に静止してテリトリーを張る(写真2). 気温にもよるが,通常午前9時頃より水辺に現れ,10時から11時頃までがピークである.

本種は均翅類としては珍しく、明瞭なテリトリーを形成する。他の♂が侵入してくると飛び立ち、追尾し、時にはぶつかり合って水面に落下するほど激しい排他性を見せることがある。しかし、この排他性には個体差があり、少し追尾した後、すぐ元の位置に戻って静止する個体も見られた。

また、ときおり飛び立って、産卵対象物のショウブの若葉をつつくように探雌飛翔することもしばしば観察された.



写真2 ♂のテリトリー(1996年3月31日). 池畔の枯れ草などに静止して♀を待つ.

4. 配偶行動

岸辺に飛来した♀と連結に成功した♂は、近くの枯れ枝などに静止し、移精を行う(写真3). トンボ類は、通常♂が腹部を曲げて♀を引き寄せて移精するが、本種では、♂が腹部を曲げながら後ずさりして行うユーモラスな行動を2例観察した。移精に要する時間は、他のアオイトトンボ科の種類と同様、比較的長く約 $10\sim20$ 秒であった。移精中に筆者が接近すると、一度飛び立ち連結状態に戻り、静止後、移精を再開したが、1例のみ飛翔中も移精を継続するカップルを観察している。

移精終了後,交尾に移行し(写真4),交尾時間は約10~15分間であつた.

交尾は午前10時頃から午前を中心に多く観察されたが、9時30分頃でも産卵が見られることから、実際には9時前後から始まるものと思われる。また、最も遅い時間では午後1時に1例 観察している.

なお,本種は移精・交尾とも,全て茶褐色の枯れ枝や枯れ草に静止して行い,見事な保護色を呈していた.

ところで、交尾されに来る♀は普段どこにいるのだろうか? 生殖行動初期には、明るい林内で♂に混じつて摂食行動を行なったり、午後になって産卵を終了したと思われる個体が少なからず目撃されているものの、最盛期の午前中に池畔や近くの草むらで♀を見ることはほとんどない.

筆者は過去の観察から、♀は樹上に静止していることが多いのではないかと考えている.これを実証するには、♀が♂のテリトリー内に侵入する過程を数多く観察する必要があるが、な

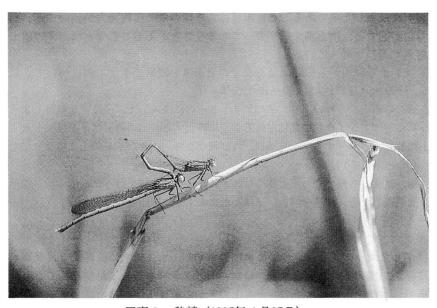


写真3 移精(1997年4月27日)

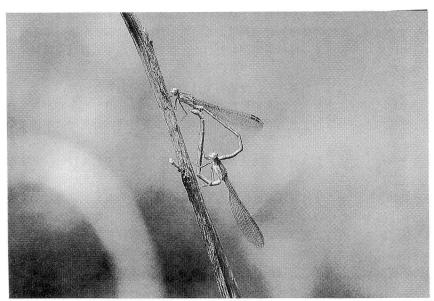


写真 4 交尾 (1997年 4 月27日)

かなかその機会にめぐりあうことは少ない.しかし,2度の連結成立の観察例がいずれも樹上から生殖域内に飛来した♀であること、本種は均翅類の中では飛翔力が強いこと、また交尾中の個体でも追い回すと、樹上高く飛び去ってしまうことがあることなどは、♀の樹上生活を推測しうる材料であると考えている.

♂が早を捕捉する瞬間から産卵に至るまでの全過程を観察できた1例について、以下に記録しておく. (1997年4月27日AM9:50−10:05快晴)

♀が岸辺の樹上から舞い下り,♂のテリトリー内に侵入した.♂は♀を捕捉しようとしたが失敗.♀は逃げてショウブの葉に隠れるように静止する.この時♂は♀を見失ったようで,一旦葉上に静止するが,すぐ♀を見つけ,再び飛び立ち,いきなり♀の上に馬乗りになって捕捉に成功した(写真 5).

捕捉後,連結して飛び立ち,近くの枯れ草に静止し,移精を行った.その後,交尾に移り,約12分間継続した後,交尾を解き,連結したまますぐに産卵を行った.

5. 産卵

交尾を終了したカップルは、速やかに水域に移動し、水生植物に産卵する(写真 6). 本種は、水面に浮かんでいる枯れ葉と水上の植物の両方に産卵することが知られており、筆者も1974年仙台市で、水面上の枯れた草の茎と水上のアシの新芽に連結および早単独で産卵するのを観察したが、当地では全例、水上のショウブの生きた組織内のみに連結したまま行われた.



写真5 ♂が♀を捕捉した瞬間.連結成立後,飛び立ち,枯れ草に静止し移精交尾を行った.

新井 (1993, 1994) は、秩父市で本種の産卵を詳細に観察しており、カップルにより水面と水上の選択に好みがあること、水面産卵は、産卵対象となりうる植物の生育が十分でない早春に多く見られることなどを報告している。当地での最も早い産卵の記録は、1996年の3月31日であるが、このカップルは、水面に多数浮いている枯れ草には見向きもせず、水面からわずか10cmくらいに伸びたショウブのみに産卵した。本種にとって、ショウブは、産卵対象物として非常に魅力的なのかもしれない。

なお、産卵中、一度飛び立ったカップルは再び静止する際、みが翅を広げ、腹部を少し曲げ、移精行動に似た行動をしてから産卵に移ることが多かった。また、アオイトトンボ科によく見られる行動であるが、一度産卵動作をしてから産卵管をはずし、しばらくしてから本格的に産卵を開始することもしばしば観察された。

当地では同時に多数の連結産卵が見られるので、産卵に要する時間を調べるのは容易ではないが、池に1組しか飛来しなかった1996年3月31日のカップルは、実に2時間10分にわたり産卵を継続した。他の個体でも30分以上継続する産卵を何度も観察しており、いずれにしても、トンボ類としては極めて産卵時間の長い種類であると言えよう。

1998年1月



写真6 産卵(1996年3月31日).観察した全てのカップルは,連結して水上の植物に行った.

参考文献

新井 裕 (1993) オツネントンボの産卵場所. 月刊むし, (274):14-15

(1994) オツネントンボの産卵場所. (続報) 月刊むし, (286):19-20

鵜殿清文(1994) オツネントンボ2題. 佳香蝶, 46(177):10

喜多英人 (1997) 1996年埼玉県内でのトンボ記録. 寄せ蛾記, (83):2320

(きた ひでと 〒203-0033 東京都東久留米市滝山6-2-15-308)

.

川越市におけるウスバシロチョウの記録

柴田直之

県南におけるウスバシロチョウの分布はおおよそJR八高線を境に西側に産している。筆者は1995年に八高線を大幅に越えた川越市内でウスバシロチョウを採集している。

·1 ♂ 埼玉県川越市増形(入間川河川敷) 14.V.1995、柴田直之採集、小野克己保管

川越市内では初記録と思われる。また、2頭目をねらって念入りに探してみたが追加することは出来なかった。当地は母校(高校)のすぐ近くであり、1987年頃には暇さえあれば散策していた地域であるが、その頃に本種を目撃したことは無い。また、入間川沿いに当地から八高線周辺までの間は河川敷は続いてるが林はとぎれとぎれであり、林を離れて飛ぶことはあっても、飛翔力から考えてこの距離を延々と飛んでくるとは考えにくい。増水により枯れ枝当に産み付けられた卵が上流から流されてきたことによる偶産ではないだろうか。

(しばた なおゆき 〒350-11 川越市諏訪町18-8)

モンキアゲハの採集・目撃例

星野正博

寄せ蛾記26号で碓井徹氏はモンキアゲハが埼玉県に土着しているかどうかの資料をいくつか提出しているが、その中で県内で同時に2頭以上の採集・目撃例があまり無いと述べている。それを受けて本誌30号には加藤輝年氏が飯能市での頻繁かつ多数の目撃採集例を発表している。同時に複数個体を得ることは近隣での発生を示唆する証拠とも言える。私自身にも同時2頭の例があった事を思い出し、当時の記録を元に報告する。s

日時と場所:1992年8月16日(日)昼頃 入間市宮寺

山崎章氏と一緒に狭山湖の西岸に近い林内の薄暗い車も通る路上を歩いていて、1♂のモンキアゲハのほぼ新鮮な完全個体を採集した.採集から5分も経たない同じ路上で別の個体を目撃した.付近で発生したと思われるが、当地に於けるカラスザンショウ・ミカン類の生育場所についての情報は持たない.

当日の同所付近での採集・目撃種も挙げておく

採集:ゴマダラチョウ、スミナガシ、モンキアゲハ、ムラサキシジミ、ウラギンシジミ、

ヒメキマダラセセリ、

目撃:キアゲハ幼虫、キタテハ、コミスジ、キチョウ、モンシロチョウ、

ヒメウラナミジャノメ、

同じ日、所沢市堀之内でジャコウアゲハを目撃したが、ホソオチョウは全く見なかった。

参考文献 碓井徹 (1979) モンキアゲハは埼玉県に土着するか 寄せ蛾記,(26):213-215 加藤輝年 (1980) モンキアゲハの土着に関する資料 寄せ蛾記,(30):255-256

(ほしの まさひろ 〒338 埼玉県与野市下落合5-14-31)

正誤表

82号及び83号に誤記がありましたので、謹んでお詫びし、訂正いたします。

	誤	正	
寄せ蛾記82号:2309ページ,上から3行目 寄せ蛾記83号:2320ページ,上から37行目 同上:2321ページ,上から26行目	—— 羽化 <u>数</u>	<u>安達</u> 辰男 羽化 <u>殼</u> 6♂	

寄世蛾記85号 目次

豊田	浩二:	帰化昆虫ブタクサハムシの記録・・・・・・・2390
豊田	浩二:	嵐山町にてヒラタクワガタを採集・・・・・・・2393
長畑	直和:	玉木長寿氏, 柴田直之氏および星野正博氏による
	培	予玉県産クワガタムシの記録・・・・・・・・・2394
萩 原	昇:	ヒラタアオコガネを埼玉県東部で採集 ・・・・・2395
萩 原	昇:	春日部市で採集したトリバガ2種の記録・・・・・2396
萩原	昇:	春日部市でウスミドリナミシャクを採集・・・・・2398
塘	久夫:	身近に見られる東洋熱帯の蝶(3)インドネシヤ・・2399
石 蔵	拓:	中津川天牛記 その2 ・・・・・・・・2404
長畑	直和:	上尾市におけるコロギスと北本市における
	ク	ツワムシの記録・・・・・・・・・・・・2406
野澤	雅美:	埼玉県産半翅類雑記(16)・・・・・・・2407
中川	利勝:	川口市道合でコエビガラスズメを採集 ・・・・・2408
中川	利勝:	浦和市大崎のクロスズメ採集記録 ・・・・・・2409
石塚	正彦:	小倉沢のムモンアカ復活・・・・・・・・・2410
西田	彰:	埼玉県下におけるトンボ類の採集記録(5)・・・・2413
星野	正博:	ルリタテハの遅い発生例及び与野市内の記録・・・・2415
吉永	潔・星	!野 正博:クマゼミの声の記録 ・・・・・・・2416
柴田	直之:	埼玉県内で採集した直翅系昆虫・・・・・・・2417
柴田	直之:	コブハサミムシの生態一知見 ・・・・・・・・2417
雛倉		本庄市でオオキトンボを確認・・・・・・・・2418
竹内		有馬山周辺のフジミドリの記録・・・・・・・2419
竹内	崇夫:	利根川土堤上でのシルビアシジミの記録・・・・・・2419
萩原	昇:	ニシキシマメイガを小川町で採集・・・・・・2420
氷室	美芳:	伊奈町とその付近で採集した蛾・・・・・・・2421
土橋	秀行:	横瀬町「県民の森」でウスタビガを採集 ・・・・・2423
喜多	英人:	オツネントンボ成熟成虫の生態・・・・・・・2424
柴田	直之:	川越市におけるウスバシロチョウの記録・・・・・・2430
星野	正博:	モンキアゲハの採集・目撃例・・・・・・・・2430
		正誤表 ・・・・・・・・・・・・・2431
		会報・編集後記 ・・・・・・・・・・・2231

(埼玉昆虫談話会 1998年1月31日, 42pp)